

# 体育会サッカー部に所属する選手のモチベーションに関する研究

スポーツコミュニケーションゼミナール 1314063 山根 拓也

## 1. 研究動機・研究目的

近年、若者のモチベーション低下が見られる。4月の入社式、新しい環境、仕事への期待に満ち溢れ、生き活きとした表情を浮かべ、社会人として一步を踏み出したのにも関わらず、新入社員の3割弱が半年で仕事に対するモチベーションを失っているという現状がある。仕事をし、生活をする上で必要なことなのにも関わらずモチベーションを失っているのはどうなのか。行動を起こす上でモチベーションというのは非常に重要になってくる。また組織に所属しているのであれば、同じ目標や目的に向かっているのであれば、同じ程度のモチベーションで目標達成に向かうべきであると考え。しかし、様々な理由でモチベーションが低下することは否めない。

大学の体育会サッカー部に所属している大半の学生は自分自身の意思で入部している。そこでどの程度サッカーや部活動に対してモチベーションがあるのか、またどのような要因でモチベーションが向上したり、低下するのかについて検討する必要がある。

本研究では大学の体育会サッカー部に所属する選手のモチベーションに着目した。

本研究の目的はレギュラー選手と非レギュラー選手でサッカーや部活動に対してのモチベーションに差があるのかを明らかにすることである。また大学ごとで差があるのかを明らかにすることを目的とする。

またモチベーションを高く維持するために選手はどのようなことをしていて、モチベーションが下がる時はどのようなときであるのかを明確にすることを目的とする。

## 2. 研究方法

調査対象：関東大学サッカーリーグ1部、2部に所属するJ大学、K大学、A大学、C大学の4大学

調査期間：関東大学サッカー後期リーグ開催期間である2017年10月18日～11月12日

調査方法：質問紙に回答を記入してもらう方式によるアンケート調査を実施した。

調査内容：個人的属性6項目、モチベーション項目53項目、

サッカーと部活動に対してのモチベーションについて4項目（記述式）

## 3. 主な結果と考察

大学ごとで比較した際に協力的モチベーション、競争的モチベーション、組織目標への意識においては有意な差は見られなかったが、学習的モチベーションはJ大学とA大学、K大学とC大学、A大学とC大学のそれぞれの間に有意な差が見られた。また立場ごとで比較した際にはレギュラー選手と控え選手（現状では出場機会がない）の間では、競争的

モチベーションの質問項目において有意な差が見られた。大学や選手自身の立場に関係なく、全体的にモチベーションは高いことが見受けられた。しかしサッカーに対するモチベーションは高いが部活動に対するモチベーションが低い選手が多く、その要因として、外的な要因が多くあることが自由記述で記載されていた。

選手自身がモチベーションをコントロールすることはもちろん必要なことである。しかし、選手に関わっている指導者が選手のモチベーションを管理することは非常に大切なことである。モチベーションマネジメントを指導者がいかにするかで選手の組織に対する思いが変わるのではないかと考える。スポーツの組織であろうと、どのような組織であろうと、監督などのチームを管理する人は選手を駒として扱うのではなく、一員として扱い、一人一人のモチベーションマネジメントをすることがコーチングという面でも必要なことであると考えられる。

#### 4. 結論

本研究では関東大学サッカーリーグ1部、2部リーグのJ大学、K大学、A大学、C大学の体育会サッカー部に所属する166名の選手を対象とし、池田・森永（2014）の職務モチベーション尺度を援用したアンケート調査を行った。協力的モチベーション、競争的モチベーション、学習的モチベーション、組織目標への意識の4つの項目に分けて質問をし、サッカーに対するモチベーション、部活動に対するモチベーションの2つを1から10の段階で表してもらった。その結果、大学ごとでのモチベーションの差は大きくは出なかった。リーグ戦において優勝争い、降格争い、昇格争いチームはもちろんモチベーションが全体的に高いことが分かった。またレギュラー、準レギュラー、控え（途中出場）控え（現状では出場機会がない）の立場ごとでもレギュラー選手と控え（現状では出場機会がない）選手に多少の差は見られたものの、モチベーションに大きな差は見られなかった。自由記述ではモチベーションを高く保つためにどのようなことをしているのか、モチベーションを上げるためにはどのようなことをしているか、モチベーションが下がる原因を深く知ることができた。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を進めるにあたり、熱心なご指導をしてくださった、伊藤真紀助教に深く感謝いたします。また、アンケート調査に快くご協力してくださった体育会サッカー部に所属する学生の皆様に心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。